

【コスト削減効果計算書 イメージ】

1.前提条件

ドライアイスのピーク時消費量(1日あたり)	100	kg/日
ドライアイスの最低消費量(1日あたり)	40	kg/日
ドライアイスの年間コスト	120万	円/年
ドライアイスの単価	85	円/kg
1か月の使用日数	22	日
置き納品有無	有	
冷凍庫の設定温度	-22	°C
希望輸送温度	-15	°C
希望キープ時間	6	時間
今お使いのボックスの種類	アルミ製保冷ボックス	

2.計算内容

キプクルの必要保有数量・・・ピーク時はドライアイス併用で検討します。

お使いのボックスは、アルミ製保冷ボックスとのことなので、ドライアイスの約2倍のキプクルが必要になります。

ドライアイスの最低消費量は40kg/日とのことなので、キプクルの使用量は80kg/日。

また、凍結させる冷凍庫温度が-22°Cであり、置き納品をされていることなので、以下のスケジュールでキプクルを回転して頂くこととなります。

0:00・・・8:00・・・10:00・・・翌0:00・・・翌8:00・・・翌10:00・・・翌々0:00

出発 戻る 凍結開始(前日配送分) ———— 凍結中 —▶ 出発(使用可能)

つまり、3回転分のキプクルが必要になります。→**キプクルの必要保有枚数:240kg**

キプクルを使用することで、減少させられるドライアイス量は40kg/日x22日x12カ月=10,560kgとなり、コストダウンは年間897,600円である。

一方で、キプクルの導入費用は約31万円(オリコン、カゴ車含む)であり、4年償却の場合の年間コストは77,500円となる。

従って、コストダウン効果は、年間約82万円(90%のコストダウン)となる。

3.運用方法

キプクル-17°Cをご使用ください。

購入保有枚数は、240kg分になります。

ドライアイス最低量のシーズンはドライアイスを使用せず、ドライアイスの2倍のキプクル-17°Cをご使用ください。それ以上のドライアイスを使用するシーズンでは、ドライアイスとの併用になりますが、キプクル使用量の半分のドライアイス減らすことができます。

***もしご興味を持って頂ける場合は、キプクル-17°Cサンプルをお貸ししますので、まずは御社冷凍施設内での凍結試験を実施してください。**